

複写連HP URL
fukusyaren.or.jp/
 401k HP URL
fukusya401k.jp

複写連だより

日本複写産業協同組合連合会
 〒105-0011東京都芝公園1-7-8
 ITビル4階 電話03(5402)6167
 FAX03(5402)1088
 e-mail: info@fukusyaren.or.jp
 URL <http://www.fukusyaren.or.jp/>
 発行責任者 森下修至

(株)リコー 感光紙の 販売中止を発表

2015年3月4日株式会社
リコーがホームページ上で下
記のお知らせを発表しました。

ジアゾ複写機の消耗品販 売終了のお知らせ

2015年3月4日
株式会社リコー

株式会社リコー（社長執行
役員：三浦善司、本社：東京
都中央区）は、2016年3月
末日をもってジアゾ複写機
（青焼きコピー機）の消耗品
の販売を終了いたします。

リコーは、ジアゾ複写機の
消耗品である感光紙の提供の
ため1936年に設立され（当
時は理研感光紙株式会社）、
感光紙に加えジアゾ複写機本
体も提供することで、日本の
産業や社会の発展に貢献して
まいりました。近年の急速な
ネットワーク化やデジタル化
などにより需要が減少し、20
07年にはジアゾ複写機の製
造を終了しておりましたが、
この度、感光紙などの消耗品
の販売を終了させていただきます。
長年ご愛顧いただき、
誠にありがとうございました。

今後はより高機能で使いや
すく進化したデジタル広幅複
合機により、お客様のビジネ
スに貢献してまいります。そ
してさらに、お客様に安心、
満足、感動していただける新
たな製品・サービスの提供と

価値創造を続けてまいります。
引き続き、リコー製品をご愛
用いただけますようお願い申し
上げます。（太字は筆者）

ジアゾ複写機の消耗品の販
売終了予定

・終了時期：2016年3月末
日

・対象品目：ジアゾ感光紙、
現像液、アンモニア水

※詳しくは、販売担当者にご確認
下さい。

ジアゾ複写機の保守終了予
定

ジアゾ複写機本体の保守は
順次終了しており、2015年3
月末日ですべての機種が終了
となります。

※2015年4月以降の修理受付時は
部品の有無を確認し、お見積の上
で有償保守を実施します。

※詳しくは、販売担当者にご確認
下さい。

楠本副会長 メッセージ

『リーダー達への Message—
協同組合と複写連、その本来
と将来—』

副会長 楠本雅一
（前号から続きです）
青年部の自壊
地域青年部の上部組織であ



副会長 楠本雅一氏

る協同組合の運営は急速に厳
しくなりました。

こういう時、業界の前衛と
なって青年部は革新運動の中
核を担わなければなりません。
そこにこそ青年部の存在意義
があります。しかし地域が厳
しさを増すなか、独自の力を
持たない青年部の運営は当然
のごとく困難になりました。
それでも、複写連青年部にお
いてはITを活用していくつ
かのコミュニケーション施策
は実行されました。

残念ながら、コミュニケー
ションの目的が曖昧でゴール
が設定しにくい施策は無為な
るものです。またそれらの施
策の結果検証が行われ公表さ
れた形跡もありません。もち
ろん改善も行われなかったの
かもしれません。本施策を実
行した方々を批判するのでは
なく、このことは青年部に内
包されていた本質が露呈した
にすぎません。上部組織と下
部組織の関係性と距離感の問
題。会長の短期の任期からく
る施策の継続性のなさ、当然
施策への責任の希薄さなどか
らくるものです。

複写連青年部は自らの価値
を表明することもなく201
4年3月に完全に消えました。

一部の熱心な役員達によって
再起を試みたのですが、この
数年は自壊のための準備期間
でしかありませんでした。
原因を二つあげます。

一つは設立の高揚した御祭
り騒ぎの裏にすでに在りまし
た。自分も含め設立に参加し
た者すべてに言える事です。
正直に言うと、この御祭騒ぎ
そのものが青年部でした。こ
の雰囲気で全国の仲間が集ま
りました。しかしそれは刹那
的興奮であって、青年部の将
来、業界の将来を冷静に見つ
めている者はどのくらいいた
でしょうか。僅かですが、綻
びの兆候が創設時に在りまし
た。しかし微かな音のために
祭りの聲の中に消えていきま
した。

原因は、繰り返すことにな
りますが、作ることが目的で
あった組織が作られた、その
後の方針が確かでなかったと
いうことです。組織は作ること
が目的でなく、目的があつ
て組織は作られるものである
ということの、設立時に内包
していた矛盾を最後まで止揚
する意識が欠如していたこと
にあります。

あるいは内包する矛盾の本
質を見極める眼を持たなかつ
たからかもしれません。御祭
り騒ぎの中で複写連青年部の
本来と将来を冷静に見ること
ができなかった創設者たちの
責任は重大です。結果として、
青年部と言う組織の真の目的
の設定が曖昧であったと反省
しています。それ故にこの歴
史からしっかりと学ばねばな
らない。

この歴史は、個人の責に帰するものではありません。青年部生誕の経緯を突き詰めていくと、目的が次世代組織を作ることであったがゆえに、全国組織である複写連がその青年部価値を顕在化し定義することに主体的に行動せず、その重要な核心は青年部の意志に任せられていました。任された方はコンセプトメイキングの技術や表現に捉われ、参加者で「業界の未来、そのなかでの青年部の役割」について議論をし尽くすという場面はありませんでした。形而上的議論が不得手な人も多かったように記憶しています。形より上なる議論の末に、形より下なる方策を決定すべきでした。

また、複写連においても青年部と強く結節する意思が欠落し、当然その機能が不足していました。地域の協同組合と全国の複写連の一定の距離を置いた関係は、縮小されながらも相似的に複写連本体と青年部との関係に置換されていきました。お互いがお互いに関わり合う事の人間的難しさを組織論以上に感じます。青年部は複写連によって大きな空に飛び出させてもらいながら、さらなる高みへと自ら飛翔する賢慮の戦略に欠けていたと言わざるを得ません。

もう一つの原因、それは活動を青年部理事会のなかにて管理するという委員会組織的運営法です。すなわち青年部運営者たちをルールで拘束し、このことによる余分な人的物的コストが増大しました。権威の維持のためにコストがかかりました。当時の感覚では当たり前でしたが、複写連理事会のミニチュア版が青年部にできました。

青年部執行部と複写連理事

会との相互信頼も欠けていました。複写連の下部組織であるという閉塞感が、業界の未来組織であるという理念まで高まらなかったのです。「上部・下部」の関係でなく、

「現在・未来」の関係だと規定すれば、青年部の活動や組織の質は変化したかもわかりません。もちろんこの理解は複写連理事会にて議論され決議されて初めて有効です。この二つの関係性に気付いたものはいなかったと言えます。青年部そのものも旧態依然とした業界成功時代の運営方法を採用したことは、可視的不可視的負担増へとつながっていきました。当然の如く業界が衰退していくなかでの人的・財政的な大きな負担は運営を厳しくさせ継続性の担保が揺らいでいきました。

費用対効果の検証のみならず組織のPDCAを好循環させる文化の欠如も結果として消滅した一因です。賢慮の戦略の欠如とともに、これらのことはどのような組織にも言えることではないでしょうか。全国組織の限界がそこにありました。

少し付言すれば、経営者集団であったことも背景にあります。自社に帰ればトップダウンが常です。極端ですが、部下にやらせることが仕事と考える人も多いでしょう。私的な利益を追求することにも長けています。しかし業界組織は公的機関です。「滅私奉公」は死語かも知れませんが、その精神を持っていた先達が多くいたからいま複写連は存続しています。伝教大師最澄の言葉に「忘己利他」があります。公的機関のリーダーはその意味の理解が最低の条件であり、そしてその上にそれを行動することができる高

潔な人間性が求められます。また、リーダーは組織運営の方法論を熟知していなければなりません。さらに現実を評価分析し、対応策を企画し、それを実行する。

なお、この資質はどのような組織のリーダーにおいても共通です。

まだまだ、自壊の理由は探せば色々出ででしょう。しかし本稿においてそれは目的ではありません。また個人を責めるものでも全くありません。いつか新しい次世代組織が検討される時の参考に資して欲しいからです。複写連青年部問題を原点にまで立ち返り冷徹に過去を抉(えぐ)り出し、本来の青年部思想とその具現化の失敗を記録し、かつ記憶しておくことを目的でした。

ついでながら、複写連青年部の歴史を振り返り、どうすればよかったのか。それを主体者の一人であった筆者が仮説を提示しておきます。

「組織を作ることが目的であった」ということは重要な仮説構築の材料です。それを前提とするならば、組織原論である目的は達成したのだから、全国に地域青年部ができた時点で、複写連青年部は全国青年部連絡会程度の緩やかな連携を目的とする組織とすべきでした。また、業態変革プロジェクトは複写連理事会にて組織し、そこに複写連青年部の中から優秀な人を選抜して小人数で推進すべきであったのではないだろうか。歴史に「たら・れば」はないという意見もあるが、チャーチルの言葉を思い出してください。いつかの未来、近いかもしれないが、若い人たちの孵化機組織を立ち上げる時、「他山の石を以て玉(ぎょく)を攻

(おさ)むべし」という諺を思い出してください。

集まる場と機会

初代から歴代の青年部会長はその持てる能力と時間を可能な限り費やしてくれました。このような人材は業界にはまだ多くいますが、いまは過去のように半ば強制的に組織に参加させることは困難な時代です。そういうなか、有意な若者たちが自らの意思で集まってくれる組織の求心力とは何でしょうか。大いなる議論の種です。

若いリーダー達はITを活用して、業界内の若者達が交流するという施策に挑みました。しかしながら、メンバー交流の意味やゴールが不明確であり、交流事業の価値認識が個人レベルにとどまり組織全体の価値へと成長させるに至りませんでした。業界善を追求する場におけるITの限界です。その状況はいまもさして変化はないと思います。なぜなら人が使っているからです。また、便利な道具はすぐそれに代わる道具が現れます。その時々道具を追いかけるより、人の本性に立ちかえった交流が重要です。その交流の意味目的を明示することにより道具を整えるとよいでしょう。木を切るには鋸、木に穴をあけるには錐、です

ね。そういう意味では全国青年部組織においては、メールや音声だけではなく、顔と顔を会わせる場と機会が必要なことは間違いありません。しかし全国レベルでの集合は、複写連大会ですら2年に1回となり、それは現実的でしょうか。

集まる場に価値が在ることを否定する者はいないでしょ

う。業界とは「(同業者が)集まる場(界)」だと定義することもできます。その実行には、可能かつ継続できるような地理的条件を限定したうえで、その場を設えるほうが妥当です。すなわち、所属員や若い人が集まることのできる場と機会を設えることは、地域の協同組合の基本機能であるということです。簡単な出会いの場から始まり、少しずつ本質的議論ができる場の成長をあらかじめ企図しておかなければなりません。特に次世代が「集まる場」としての組合の機能は魅力があります。地域内でいつでも集まる事ができる場、そこから新たな価値が創造される予感があります。集める人たち、集まりたい人たち、それぞれに日々努力し苦勞している若者たちです。単なる懇親会ではなく、集める者も集まる者も未来に意図を持った将来のための邂逅とすべきです。

複写連が考える次世代の本質

本稿においては「次世代」を考えたいと思います。新たな地域青年部再生の胎動がその将来を暗示することができます。

複写連ではすでに「POD市場の創造と拡大—そして顧客の創造」という目的のもと具体的な活動を展開しています。この活動は将来を見据えたもので現役世代も次世代もその境は何もありません。世代を超えて取り組まなければならないことです。したがって、改めて次世代(青年達)を組織するという無駄はしません。変革するという事は時代の垣根を超えるということに他ならないからです。一前述の歴史を遡った仮説の事で

す。いまは各理事長の責任において各地域の優秀な人材を発掘することが急務です。

複写連が「次世代」という言葉を使う時、それは「永遠の絶えざるイノベーション文化」を意味しています。そのための活動に伴う個別の組織は、戦略志向のうえにその都度編成します。複写連が言う「次世代」という概念には「青年部組織」という固定的概念は何処にもありません。複写連は永遠に次の時代、次世代を考え続ける組織でなければならぬという事です。そのエネルギーを失った時に複写連は消えていきます。

2013年度においては「次世代戦略委員会」がありました。その委員会がその役割を担いますが、理事達の理解がまだ得られていないようなので暫し休止しています。だが、その精神は他の委員会に内在し実行の準備はいつもされています。なぜ次世代という概念を明確にしなければならないのか。

激変の世の中は無常です。常に同じ処に留まりません。経済環境も、それに応じる事業もそうです。

「ゆく川の流は絶えずして、しかも、もとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びてとどまりたるためしなし」(鴨長明「方丈記」)

人はこのような無常の世に棲み蠢(うごめ)くのです。そのような環境で事業を行い、同じ生業の者が集まる組織において「無常」を前提とした組織思想を持っていなければならないことは当然です。ドラッカーは明日を生きるためにイノベーションを欠かざるものであると明言しています。逆に、同じ処に留まる事は其

処に沈み逝くことを意味します。イノベーション、すなわち未来に向けて能動的に革新行動をとるということこそ、無常の世に対する積極的な経営アプローチ手法です。自明のことです。それを組織の形で表現すれば「次世代組織」となりますが、組織は作ると目的が達成されたかのように錯覚します。ここで複写連が言う次世代とは組織ではなく次代への進化に向けた革新運動です。複写連では、すでに事業の精神において次世代を着々と遂行しています。

確実に形骸化する組織体は複写連には不要です。必要な事は次代に向けて常に革新をし続けるという強い精神です。またそれを無限運動のように継続する文化を育てることにあります。

それを次世代といい、推進組織を次世代組織と称しています。

地域青年部の育成

複写連には次世代を対象とする青年部全国組織は不要だと宣言しました。

しかし、地域には次世代組織は絶対に必要です。地域にこそ次世代が集まる場が必要です。そして、地域の協同組合が主体となって後継者をはじめとする有為なる次代を育てなければなりません。また集まりやすい地理的条件は地元にはしかありません。全国組織には存在しません。

小学生、中学生、高校生ぐらいまでは地元に通学させて親元で守り育てます。そのうえで、親子の甘えを律し、社会に出ても恥ずかしくないような躰を施します。それらが終わり成長を見届けたうえで、より高等教育を受けさせるために全国規模の大学へと進学

させ、少しずつ距離をとって社会に巣立っていきます。

基本的には、親は子供を育てることを他人任せにしません。自らの手元においてこそ、立派に育つと信じています。例外的な全寮制寄宿舎による教育はここでは論じません。地域青年部の育成を全国組織の複写連に頼ること、すなわち他者に頼るということは教育放棄・育児放棄と同意です。他人任せにしないで、自分たちで育てることが重要です。その育てる過程で親子双方に未来が見えてきます。

育ったのちに情報共有と業界の連帯を高めるために全国規模の組織に参加することはあり得るでしょう。もちろん意義ある全国組織が在ったと仮定しての事です。

しかし現状、協同組合も地域青年部も苦境のなかではそのような選択はありません。業界が右肩に成長している時ならばともかく、現実の困難を地域全体で乗り越えようという理事長は、すでになくなった全国組織に頼る事は無駄な事と悟り、自分の地域で、自分達で育てることにその力を集中すべきです。

最初の青年部は複写連主導で出来ました。業界の将来の姿が見えた時には、地域主導で明確な理念と目的と事業を持った青年部を創りたいものです。その時こそ、業界の進化と言えます。

次世代組織の目的は業界未来戦略の構築です。しかし、現世代が活動しなければ次世代は行動へと移ることができません。一方、次世代の若者たちのエネルギーとナレッジは重要で欠くべからずものです。理事長は地域組合の革新構想による業界の夢を提示し、自分たちの将来をかけた世代

連携のライアンスとネットワークを構築しなければなりません。

次世代を育て将来の階(きざはし)へと業界全体が登るため、現世代は自ら革新していかねばなりません。革新しない現世代に次世代は共感してついてくることはあり得ません。次世代の育成は現世代の革新活動に根っこがあります。次世代組織を創るといことは世代を超えての連帯が必須であり地域組織活性化の契機になります。

協同組合と複写連の覚悟

協同組合の規模や力では、自らの力で次世代を立ち上げることが出来ないということもあります。だが次世代組織の必要性は感じるの、他者に頼りたいという気持ちも理解できます。しかし自らの責務を放棄して他者に頼る事は結果として何も生まないでしょう。そのことは過去が証明しています。

地域青年部は、理事長自らの大志に基づく未来戦略のなか、協同組合で次代を育てるという覚悟が不可欠です。そのうえで実行可能な範囲から少しずつ取り組めば地域の活性化は現実味を帯びるでしょう。その行動があれば必ずや複写連は各地域の理事長を応援します。地域組合を通じて間接的な手法ながら地元次世代組織を支援します。その連続が組合革新へとつながります。これもまた将来の組合と複写連のあるべき姿です。

あえて、複写連の覚悟を確認しておきます。

複写連青年部という全国組織は現時点ではまったくの考慮の域外です。業界次世代の革新活動が進むなか、改めて世代間に境界線を設定し分断

する次世代全国組織の結成は無意味です。時間と労力の無駄であり、全く不要だと断言できます。

それは前述したように、所属員一社一社が活力を取り戻し業界が進化した時、そして新たな変節点がおぼろげながら現れた時に、業界一丸となって改めて考えるべきものです。その時にこそ、ここまで書いてきたこと「他山の石の諺」とその内容を思いだしてください。世代の垣根を越えて共に苦境を越えて行かなければならない時に、世代を分断し広域曖昧な再度の次世代組織を作ることは過去の愚を繰り返すことであり全く無価値な幻影です。

ただ、地域においては次世代組織が絶対必要だとも書きました。それは現役世代と次世代の関心に微妙なずれがあることも事実だからです。また次世代の聲を聴くためにはその声だけが集まる場が必要です。過去や現在にとらわれない自由な未来への発想と発言が将来を構成していきます。その聲を集約しそれを議論する場が必要だからです。地域青年部組織の再構築には各理事長の理解のもと複写連は最適な支援をします。

(次回に続きます。)

メーカー最新情報

賛助会員各社の最新情報
をお知らせします

コニカミノルタとシーイーシー、協力関係を維持し、さらなるサービス事業の発展を目指した体制を構築

～コニカミノルタビズコムをコニカミノルタビジネスソリューションズが吸収合

併～

2015年2月24日

コニカミノルタ株式会社
コニカミノルタビジネス
ソリューションズ株式会社

株式会社シーイーシー

コニカミノルタ株式会社
(代表取締役社長：山名 昌衛、以下 コニカミノルタ)および情報機器事業の国内販売会社であるコニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社(本社：東京都港区、代表取締役社長：和田 幹二、以下 コニカミノルタBJ)と株式会社シーイーシー(本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：田原 富士夫、以下 シーイーシー)は、このたび、2015年4月1日をもって合弁会社であるコニカミノルタビズコム株式会社(代表取締役社長：山田 恭、以下 ビズコム)における合弁を発展的に解消し、同日コニカミノルタBJとビズコムが合併することを決定いたしました。

合弁解消の理由

ビズコムは、情報機器を核としたソリューション事業の強化を図るべく上記3社の合弁会社として2008年2月に設立され、コニカミノルタの国内におけるソリューション事業の展開拡大に大きく貢献してまいりました。特に中小規模企業向けIT運用サービス(IT-Guardians)は、3社合弁の集大成であり、継続的なメニュー強化を行いながら着実にお客様に受け入れられ、ビジネスの拡大に寄与してきております。また、コニカミノルタが自らグローバルでのweb統合管理を実践してきた実績を背景に提供する”webサイト構築・運用サービス”は、大企業から中小企業に至る幅広いお客様に受け入れられ、ビズコム

のもう一つの柱として着実に成長してまいりました。

さらにシーイーシーでは、コニカミノルタとのビジネスパートナーとしての基盤も確立し、協力関係の強化も進んでいることから、これらの事業を更に大きく発展・拡大させるために、コニカミノルタBJにリソースを集中することが最適であると判断し、このたび合弁を発展的に解消することを3社間で合意いたしました。

合弁解消後の体制および関係性について

合弁解消に伴い、コニカミノルタBJがコニカミノルタおよびシーイーシー保有の全株式を買い取り、ビズコムを吸収合併し、ビズコムは全ての機能(開発、販売、商品サポートなど)をコニカミノルタBJに移管します。

コニカミノルタグループでは、今後さらに充実した付加価値サービスをより効率的にお客様に提供し、ソリューション事業を継続的に拡大してまいります。

また、シーイーシーでは、コニカミノルタグループとの協力のもと、今後もお客様に特徴ある独自のサービスを提供してまいります。

コニカミノルタ/コニカミノルタBJとシーイーシーは合弁解消後も、コニカミノルタBJでのシーイーシー製認証印刷ソリューション『Smart SE SAME SecurePrint!』や各種インテグレーションサービスの提供等を通じて、引き続き強固なビジネスパートナーとしてお客様に価値あるソリューションを提供すべく協力関係を強化してまいります。

社長の歳時記

アタタの記憶力は衰えていない！ 記憶力を取り戻す方法

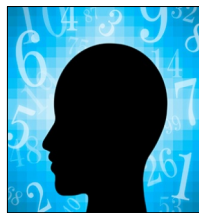
掲載日：2015年3月2日

「最近もの忘れが激しくて！特に人の名前とかダメですねー」

こんなため息交じりの発言をよく耳にします。主に50歳代から上の方々でしょうか。年をとれば記憶力は低下するのだから仕方がない！これは当の本人はもちろん、もっと若い方々の間でも常識のようになっていきます。しかし、昨今の脳の研究によると、(私たちにとって非常に嬉しいことに)「年齢を重ねても、記憶力は低下しない」ということが徐々に判明してきました。脳科学者の池谷裕二先生は、私たちが年齢と共に「記憶力が衰えた」と感じる理由について、次のように述べられています。

「大人は、記憶力が低下したことをとても気にしますが、実際のところ、度忘れの回数は大人も子どもも変わらないんです。大人はそれを『老化の象徴』と捉えることで深刻になってしまうんですが、子どもは思い出せなくても、特に気にはしていない。それだけの違いなんです。(中略)

それでもやはり、子どもの頃に比べたら、人の名前が思い出しにくくなっている……と思った人も多いはず。名前が思い出せないのは、大人は子どもと比べて、知人の数が圧倒的に多いため。たくさんの引き出しからひとつの名前を取り出すには時間がかかり



ます。知人が少ない子どもは、少ない引き出しから簡単にひとつを取り出すことができ、また、何度も出し入れするので、記憶を定着させる復習効果も高いのです。」

なんとも心強い見解です。確かに大人の場合、覚え、対応しなければならぬ事柄は子どもの比ではありません。

しかも、大人の生活のなかには記憶力を「一時的に」低下させてしまう要素が多く存在しています。

たとえば仕事などから来る「ストレス」。人はストレスを感じるとストレスホルモンと呼ばれる「コルチゾール」が分泌されます。ストレスが長期間続いて慢性化し、このコルチゾールが過剰に増えると、「記憶力が低下する」「考えがまとまらない」という状態を引き起こす原因となります。

また「睡眠不足」も、記憶力を低下させる原因となります。睡眠は脳が休息し、また情報を整理する時間でもあります。睡眠が短くなることで、脳が入ってきた情報を「整理する時間」がなく、記憶として脳に定着させにくくなってしまいます。

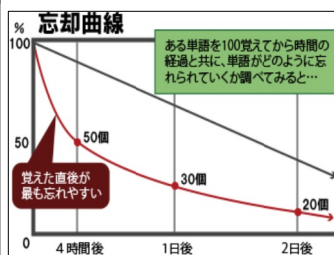
万人に共通する「忘れる」の傾向と対策

では、どうすれば記憶力は戻るのでしょうか。

前出の池谷先生は、人が物事を「覚えること」の傾向についても興味深い見解を述べられています。これによると、記憶は脳の海馬という部分が、必要な情報を取捨選択してふるいにかけており、海馬が『この情報は必要』と判断すれば記憶します。その基準は、「生命維持に必要なかどうか」。

つまり、危険や食べ物など、生きるために必要と判断された情報は、確実に覚えていきます。

つまり生きるのに関係ない(興味のない・つまらないと感じる)情報は、なかなか記憶できません。言われてみれば身に覚えのある事実です。つまり物事を覚えるためには、興味を持ってワクワクするなどの感情を伴わせることも有効な方法となります。好きなタレントなどの名前がすぐ覚えられるのもこのおかげです。実際に実験でも、ワクワク、ドキドキ、好きなことをしているときには「シータ波」(脳波の一種)が出て、記憶力が高まることが証明されています。



エビングハウスの忘却曲線

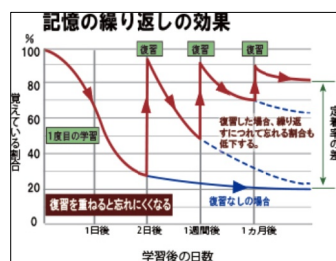
つまり、覚えられない一因として、「経験が豊富なゆえ」生きるうえで重要と思える情報が減ったことや、なかなかワクワク、ドキドキしなくなった！ということも大いに関係があるようです。

さらに、記憶と忘却の関係には、こんな面白い実験データがあります。これは「エビングハウスの忘却曲線」といわれるもので、まったく無意味な複数の単語を覚えてもらい、それらをどれくらい長く覚えているか調べたものです。これによると、たとえ懸命に暗記しても、復習しなければ、翌日には7割以上忘れてしまい、1ヶ月後には8割を忘れてしまう、という事実が分かります。

この結果は、「頭が良い」といわれている人(＝記憶が得意な人)であっても勉強が苦手な人であっても、大差ありません。

の関係 しかしここで面白いのは、忘却したといっても、すべてを忘れてしまっているわけではない点です。例えば「ササキさん」という名前。1日たって忘れてしまい、ササキさんという名前が出なくなってしまったとしても、すべて忘れてしまっているわけではなく、少なくとも「ノグチさん」ではなかったという記憶はしっかりと残っています。つまり忘れていながらも何割かは定着しているわけです。ここで記憶を定着させるのもっとも有効なのが、「復習」です。右のグラフをご覧ください。忘却が復習によってどのように回復したかを示しています。

つまり



エビングハウスの忘却曲線と復習

- 人間は(生きるために重要なこと以外は)一度ではほとんど覚えられない
- 何度も繰り返すことで記憶は定着する

ということなのです。実は大人が物事を覚えられない一因として、学生のときほど何度も繰り返して覚える努力をしなくなることも挙げられます。実際、若い人や子どもは何度も繰り返す機会が多いということは言えそうです。また先ほどの海馬の話においても、この繰り返しの大切さが言われています。たとえば海

馬が「生きるために重要ではない」と判断し、記憶しなかったとしても、何度も繰り返すうちに「重要である」と誤解し、脳に覚えさせてしまう、というのです。

記憶力を取り戻す方法

ここまで申し上げたことを、もう一度まとめてみましょう。

- 記憶力は衰えていない
 - ストレスや睡眠不足が、記憶力を一時的に低下させる
 - 記憶を司る「海馬」は生きるために重要と判断したことを優先して脳に記憶させる（経験豊富なゆえ、生きるために重要と判断する情報が減っている）
 - ワクワク、ドキドキしながらだと記憶力が高まる（大人はワクワクが減っている）
 - 人は個人差なく一定の期間を経ると忘れる
 - 忘れないためには「繰り返し」が大切（大人は繰り返す機会が少ない）
- ということです。

いかがでしょう。記憶力が年齢と共に低下しているわけではなく、低下していると感じるのは、大人の感じ方や生活が記憶の邪魔をしているだけ。まずは「いろいろなことに興味をきちんと持つてみる」というあたりから始めてみるのも良いかもしれませんね。

会長の独り言

先人の言う「三寒四温」とは的を得た言葉ですね。寒かったり暖かかったりの日々がしばらく続き、やがて春が訪れます。庭の河津桜は既に開花しました。東京ではあと二週間もすれば桜が一斉に咲き始めます。九州や中四国や大阪

では来週にも蕾が膨らんでくのではないのでしょうか？ 待ち遠しかった芽吹きの季節がやってきます。私は桜が大好きで、心うきうきする日も間近になりました。

一方1月から3月には過去いろいろな事件の起こった月でもあります。

阪神・淡路大震災は1995年1月17日5時46分発生しました。死者行方不明6,437名。既に20年経過しました。迎える3月11日は2011年同日14時46分に発生、死者行方不明18,483人でした。今も東北の復興は始まったばかりの様相です。

また70年前には東京大空襲(1945年3月10日)をはじめ全国の都市が何十回となく空襲の被害を受け、述べの死者行方不明者は原爆の死者も含め410,368人と言われています。加えて太平洋戦争だけでなく、改めた犠牲となった方々には哀悼の意を表します。

このように人間や国同士の戦いは民族・宗教などいろいろな原因があると思いますが、今でも世界中で殺戮が繰り返されていることを考えますと胸が締め付けられる思いです。

その中で日本は70年間にわたり新しい秩序を作り上げ、世界の中でも安全であると言われるようになりました。これは私たちの諸先輩が戦争の体験を通じ今生きる人たちに身を持って与えてくれたプレゼントだと思います。勝つ見込みのない戦争に突入り、自分の死に何か意味を持たせるとしたら、次の世代の安穏な生活を祈る事ばかりであったのかなと推測すると感謝の気持ちで心が満ち溢れます。素晴らしいことです。

私の父親は大正14年生まれ

で既に64歳で他界しましたが、「俺は最後の赤紙で徴兵された」と話をしていました。新兵で運よく実戦には参加しなかったようです。私は昭和24年生まれで徴兵された方たちが戦地から帰還し日本の復興時に「新人類」として大量に生まれた戦後の「段階の世代」の一人です。今に比べれば生活環境や食糧も比較できないほどの生活状況でしたが、それでも普通に育ってきました。

「小学生が携帯電話持つ」時代とは比較できませんが、小さな頃、毎日身の回りにある何かしらが遊ぶ材料となり何の不便もなく多くの遊び仲間との楽しい日々がありました。

1クラス70人位学級でとにかく学校にはたくさんの子供がいました。そして日本の復興と池田勇人氏「貧乏人は麦を食え」、「中小企業の5人や10人〜」など失言も多かった総理大臣ですが、この頃から大きく日本は様変わりし始めたのを良く覚えています。

「日本人の持つ人情や人を思う心」が希薄となった今の世の中を見ると少し悲しくなります。都会ではマンション住まいが増え、同じ地域に住む方との交流も以前に比べれば様変わりしています。それが都会流の生活様式化も知れませんが、このことが逆に新しい時代の社会問題の要因にもなっている気がします。

欧米の思想、金融工学的経済、合理的な生活様式も必要だと思いますが、あまりにも洗脳され過ぎている傾向には抵抗感があります。

日本列島に住む日本人独自の生活スタイルや人間関係の構築の仕方など先人に学ぶべき伝統は残して行きたいと思うのは私だけでしょうか。

センチメンタルな気分なる

のは歳をとった証拠かも知れませんが、しかしこれからの時代に生きる人たちが少しでも豊かでかつ人間的に重みや深さを持つ人間として生きて行ってもらえることを願う心も私たち世代にはあります。

時には時代の先端を!たまにはふと振り返り自分の生き方を!もう一度再検証することが必要なのではないのでしょうか。人間の生き方はいろいろですが充実した日々を過ごすことを考える時間は大切ですね。

各家族化し、人口が減少し、いまある住居やマンションも有り余る時代がやがて来ます。もう一度、日本の大家族制度の生活を思い返す時があるかも知れません。

家族の絆や友人との絆、そして周囲の方々との絆、そういうものが見直される時、地方の過疎化問題も解決されるかも知れません。

身の丈に合った生活を求め心豊かに人間が接することのできる日本は二度と来ないのでしょうか。

所属員の動向

(異動は複写連事務局まで)

複写連行事予定

- ※平成27年3月12日(木) 日本複写産業協同組合連合会総務委員会、大阪市
- ※平成27年5月13日(水) 日本複写産業協同組合連合会第30期5回理事会、江東区日本HP社会議室
- ※平成27年6月9日(火) IMN協同組合総会明治記念館
- ※平成27年6月25日(木) 日本複写産業協同組合連合会総会、世界貿易センター